



プログラム終了パーティーでの集合写真



パーティーにて、授業でお世話になった教授達と

に帰省して過ごすため、「日本人の留学生は本当によく旅行に行くね」と驚かれますが、せつかくの機会はやっぱり生かしたい。旅行に限らず、自分の目で見て肌で感じる体験に勝るものはありません。新しいものにどんどん触れて、その時その時に感じることを大切にしていきたいのです。

たくさんの人との出会いから学ぶこと

この場所をお借りして約9カ月、私の留学生活をお伝えしてきましたが、私の経験が世界中にいる留学生のほんの1片であることを日々感じています。留学先での収穫は、何といってもたくさんの人との出会い。現地の友達はもちろん、留学生との出会いも私にとって大切な経験の一つです。みんな自分とは違ったそれぞれのスタイルをもっていて、いつも私を刺激してくれます。ステージパフォーマンスのイベントを企画し人を集めて一からプロデュースする子がいたり、オレゴンにいる日本人社長とコンタクトをとり講演会をセッティングする子がいたり、現地のクラブ活動に参加している子がいたり。私とは全く違った視点で、それぞれが留学中の今だからこそできることに熱中しています。独自のブログを作り、日常の様子や自分で撮った写真を掲載している子もちらほら。様々な形で、皆うまく自分を発信しているんです。留学を終えたそれぞれが、自分にしかない経験をもっています。

そしてどの人を見ていても思うのは、行動力の重要さ。日本にいた頃の私には欠けていたことのひとつかもしれません。まずは自分がどうしたいのか。ここではそれが一番の優先順位となって、先の行動が決まっていきます。個人で何かをする場合に限らず、グループの中においても自分の意見を持つことが重要視され、また個人の意思が尊重されます。アメリカに来てからしばらく、「礼子はどうしたいの?」といった質問はどれも苦手でした。聞かれてからはじめて「私はどうしたいのだろう?」と考え始めることが多くて、自分が出した答えに対しても周り

の人はどう思うだろう、ということばかり気にしていました。でも、ここでは他人の評価を気にして行動している人は日本に比べると明らかに少なく感じます。みんな、自分をそして自分が今やりたい事や将来について、自信を持ってためらいなく話をしますし、そんな姿はやはり輝いてみえます。常々感じるのは、伝えようとしなければ何も始まらなくて、逆にこちらが行動を起こせば相手もそれに応えてくれるということ。行動することをためらっていたら時間ばかりが過ぎて行ってしまいます。ここで過ごすことができる時間が限られていて、さらに日本にいるときよりも自分と向き合う時間はたっぷりあるからこそそのことに気がつけたし、チャレンジ精神のある人に囲まれている環境が、小さなことでいつも踏みとどまっていた私を少しずつ変えていってくれました。自分の意思、信念のようなものをしっかり持っている人と自然と自分のすべきことが見えてくるのかもしれない。

夏学期もさっそく始まりました。これから約2カ月、私の留學生生活のラストスパートです。正直、まだまだここでもっと長く過ごしたいという気持ちが強く、この街やここで出会った人たちにお別れを言うのを今は考えられません。それでも残された時間はあと少し。焦らずに自分と向き合ってい、人との関わりや時間を大切に、そして2ヶ月後に満足して日本に向かえるように過ごしていこうと思います。

(2010年7月5日)

早稲田の学生の留学エッセイは、下のサイトでお読みになれます。
www.infoe.com/IMZ/WASEDA/WSD-List-1.htm



三浦さんの参加してきた9ヶ月間の留学プログラムが終わりました。このコラムのタイトル「私の異文化体験記」通り、この9ヶ月間の人との出会い・勉強・旅行、その他の体験を通して、三浦さんは大変多くのことを学ぶことができました。

他の留學生が旅行・インターンシップ・帰国で学校を離れていく中、三浦さんはあと2ヶ月あまりの夏学期の授業を受けます。ファイト!